



肝ぞう通信

2023年度 第8号 《 体成分分析装置について 》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院1階
総合相談室

受付時間：
平日 9:00～15:00
土曜日 9:00～12:00
(第2・4土曜日除く)

ご案内

InBody 測定は外来栄養指導を受けられている方を対象に実施しています。料金は1回60点(3割負担の場合180円)がかかります。(医師にご相談ください)

次回号

テーマ：
腹部超音波検査でわかること

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

体成分分析装置について

体成分分析装置について皆さんご存知でしょうか。家庭用の体組成計でも体脂肪量や基礎代謝量などが測定できますが、当院の InBody770 は医療管理機器として登録されており、複数の周波数の微弱電流を体内に流し、部位別の筋肉量、脂肪量、浮腫などを評価することができます。

今回は、InBody の測定で何がわかるのか、結果の見方についてご紹介いたします。

<InBody の活用について>

肝機能の低下により、食事から十分なエネルギー量を確保できなくなり、筋肉量が減少することが多くあります。

またエネルギーが不足すると、主に肝臓で生成され、血管内に水分を保持する働きをもつタンパク質であるアルブミンが減少し、浮腫が発生しやすくなります。

InBody 測定において筋肉量は、体水分量とタンパク質量から算出されています。見かけ上、筋肉量が増加していても、内訳を見ると体水分量が増加しており、浮腫が悪化しているということもあります。

体重測定だけでは体重の増減の原因はわかりませんが、InBody を活用することで、原因を明確化することができます。

